

◆お断り◆

ゴルフ場での、カメラ、携帯等での写真撮影が全面禁止されております。ここで使用しました写真は、JGTO許可のもとに撮影されたものと、JGTOの撮影されたものを使用しております。



DUNLOP SRIXON
Fukushima Open

スペシャル版③

午後の活動「パッティング対決」の後

JGTO宮内さんによる「芝読みスペシャル講義」を開催



※全員がグリーンの傾斜を見ている様子

24日の午後は、グランディ那須白河ゴルフクラブのWESTコース3番を利用して、「パッティング対決」にチャレンジしました。みんなで楽しく賞品をゲットしました。



その後、JGTO宮内さんの特別指導をいただきました。それは、今まで何気なくレッスンプロとパター練習をしてきた「グリーン」についてです。

「ゴルフ場のグリーンは、常に管理され整備されている。よく見ると、なだらかな傾斜や勾配のきつい箇所があったり、芝が逆立っていたり、周りが小高く設計されていて、実は傾斜が緩やかに見えてきつい箇所もあるなど、目の錯覚を生むような工夫がされている。どの程度の力で、どの方向に打つことがパットを決めることにつながるのか。芝の方向、打つ強さ、方向でボールの転がり方に変化が生まれる。・・・」など、ごく初歩的な芝の読み方をご指導頂きました。ゴルフ活動を継続してきている5、6年生にとって、とても貴重な学習の機会となり、おそらく今後のゴルフ場グリーンでのパッティング練習に生かされるものと期待しています。

「グリーンを読む」ということでは、この福島オープンで次のようなシーンに接しました。

決勝ラウンド最終日、松山英樹プロの最終18番でのバーディーショットは、絶対無理であろうラフからのアプローチで、打ち上げてグリーンに落とし、グリーンの微妙な傾斜を利用してカップにもう少しでチップインバーディーという見事なプレーでした。会場にいた観客は、このような世界一流のプレーを目の当たりにし、ため息と同時に、芝の芽を読む、傾斜を読むということ、それに応じた技術力の高さを痛感しました。一流のプレーは、どれを見ても凄いと思い、いい勉強になりました。

